



FUKUSHIMA 市民インタビュー

このコーナーでは、福島市のさまざまな分野で活躍する人や団体を紹介します。今回は、縄文時代の遺跡を整備した公園「じょーもぴあ宮畑」の企画や運営に携わるじょーもぴあ活用推進協議会会長の林克重さんにインタビューしました。



じょーもぴあ活用推進協議会 会長
林 克重さん

▼ 始めたきっかけは？

平成21年12月に、地域の方、観光・まちづくり関連の方、ボランティアの方たちが連携して、公園に向けた来園者のおもてなしやPRをしていく「じょーもぴあ宮畑サポートネットワーク」が立ち上がりました。その際、都市間交流活動をしてきた私にオプザーバーとして参加してほしいと声がかかったのがきっかけです。その後、平成24年に「じょーもぴあ活用推進協議会」と「じょーもぴあ・遺跡の案内人」の二つの会になりました。

▼ どんな活動？

じょーもぴあ宮畑をたくさんの人に活用してもらうために、じょーもぴあ宮畑まつりの草むしり

ンピックや縄リソニックなど、イベントの企画・運営を行っています。

テーマを「徹底縄文」として、いつもユニークでインパクトがあるアイデアを自由に出し合っています(笑)。

▼ 一番記憶に残っていることは？

宮畑遺跡の2つの謎をテーマに小説・漫画を募集した「宮畑ミステリー大賞」です。日本中どこもやったことがないことをやろう！と企画しましたが、応募作品が締め切り1カ月前に50件も集まらず「無謀だったかなあ」と不安でした。しかし、最終的には予想を上回る149件もの素晴らしい作品が集まりました。突拍子もない企画でしたが、

委員の皆さんの人脈とご尽力で書籍化まで実現できたと思っています。たくさんの方に、ぜひ読んでいただきたいと思います。

▼ じょーもぴあ宮畑の魅力とは？

私はこの会に携わるまで、縄文の「じょ」の字も知りませんでした。縄文文化を学び、自分たち日本人のルーツは、自然の中で穏やかに生きてきた縄文人にあると強く実感しました。じょーもぴあ宮畑は、縄文時代と「今」をつなげてくれているすてきな施設だと思います。ぜひここに来て、縄文を体感してください。

10月30日(日)まで、地図を手掛かりに、市内に隠された4つの宝箱を探す「アツマとモモの不思議な宝探し」を開催しています。これは、じょーもぴあ宮畑だけでなく市内の観光名所を楽しく巡ってもらえるよう企画したものです。これからも、じょーもぴあ宮畑を中心に、福島市全体の魅力を多くの方に伝えていきたいイベントを企画していきます。じょーもぴあ宮畑を皆さんに愛される地域振興の中心として成長させ、次世代に引き継いでいきたいですね。

市長コラム No.7

「復興へ六つの魂がひとつに」

福島市長 小林 香



東日本大震災からの「復興と鎮魂」ののろしを上げようと、仙台市を皮切りに盛岡市・福島市・山形市・秋田市で行われた東北六魂祭。今年6月25・26日に青森市で行われ、福島わらじまつり実行委員会の皆さんと共に参加しました。

沿道を観客で埋め尽くしたパレードでは、長さ12メートル、重さ2トンの日本一の大わらじを披露し、観客の皆さんは、わらじの大きさに歓声を上げ、威勢のいい男衆の担ぎ演技に大きな拍手を送っていました。また、「福島がんばれ！」の声をひっきりなしに掛けていただき、深い感動を覚えました。



▲大わらじと青森ねぶたの競演は東北六魂祭でしか見れない景色

東北六魂祭は、青森市での開催で一巡しましたが、復興は道半ばです。今後の東北六魂祭の在り方を話し合った「東北六魂祭実行委員会総会」

では、被災地支援に対する感謝の気持ち、復興に向かう東北の元気な姿について、発信活動を継続する必要があると確認し、平成29年度以降も、連携した取り組みを関係機関と調整しながら進めることとしました。

さて、今年、東北六魂祭をきっかけに生まれたものがあります。それは東北六都市観光パンフレット「東北六都物語」です。



▲「東北六都物語」は海外向けに英語版も作成

広域観光連携による関東圏や海外からの誘客を目的に、6市の魅力・観光情報のほか、6市を巡る周遊観光ルートなどを掲載しています。このように、東北六魂祭は交流人口が拡大するとともに、さらなる発展と可能性を秘めた取り組みです。福島市としても、これまで培ってきた絆を生かし、他5市と連携した取り組みを進めていきたいと考えています。